

津市は合併20周年

平成18年1月1日、平成の大合併といわれる中でも、津市・久居市・河芸町・芸濃町・美里村・安濃町・香良洲町・一志町・白山町・美杉村の10市町村による大きな合併で、「津市」が誕生しました。令和8年1月に合併20周年を迎えることを記念し、6月号から7回にわたりカテゴリ別に20年の歩みを振り返っています。

津市合併
20年の歩み

Vol.2

安心で快適な 社会基盤の整備

建設・上下水道の取り組み

津市は、都市づくりの指針となる都市マスタープランや景観、空き家対策の計画を策定するとともに、社会基盤整備のための個別計画に沿って、合併後48路線の道路整備や7カ所の公園整備など、都市の骨格を形成する社会基盤の整備を行ってきました。

平成21年の台風18号の被害により廃線の危機を迎えていたJR名松線は6年にもわたる工事等の末に全線復旧を果たしました。事業化から39年を要した中勢バイパスの全線開通に向けた整備促進や水道サービスマスターの開設による窓口業務の民間委託、志登茂川浄化センターの供用開始に合わせた污水管きよの整備など、快適な暮らしを支える取り組みも進めてきました。

また、半田川田と藤方の排水区の雨水対策や津駅東西の交通円滑化を図るための大谷踏切の拡幅工事等、大規模な事業では、国の個別補助制度を活用することで、健全な財政を維持しつつ、事業を加速化してきました。

さらに、活気あるまちづくりに向けて、津駅周辺道路空間再整備や中心市街地である大門・丸之内地区にぎわいを創出するための取り組みも進めています。今後も市民の皆さんが安心して暮らせるまちづくりを進めていきます。

※文中・年表の数字は全て令和7年3月末現在



江戸橋



久居駅東口



JR名松線



津松阪海岸堤防



HOWAパーク



津興橋
(令和7年5月22日現在)



2023

2024

2019

2016

平成18

平成20

平成22

平成24

平成25

平成26

平成27

平成28

平成29

平成30

令和1

令和2

令和3

令和4

令和5

令和6

令和7

平成18年1月1日 新津市誕生

●水道事業基本計画を策定(平成23年見直し)

●国道163号 新長野トンネル開通

●都市マスタープランを策定

●安濃中央総合公園の整備完了

●水道サービスマスターを開設(窓口業務を民間委託)

●津市が景観行政団体となる

●景観計画を策定

●町民の森公園の整備完了

●雲出川水系河川整備計画を策定(国事業)

●県道一志美杉線矢頭トンネル開通

●地籍調査事業計画を策定(平成30年見直し)

●市営浄化槽事業を開始(新規376基、転換585基、掃属2900基)

●JR名松線の全線復旧

●空き家等対策計画を策定

●空き家情報バンクを市全域に拡大

●共同汚水処理施設事業を開始(5施設)

●下水道事業基本計画・第2次下水道事業基本計画を策定(令和4年見直し)

●白山・美杉地域の簡易水道事業を水道事業に統合

●都市マスタープランとともに

●立地適正化計画を策定

●県志登茂川浄化センターが供用開始

●中勢バイパス市内全線開通(国事業)

●久居駅東側周辺地区整備事業が完了

●江戸橋が開通

●行政代執行による特定空き家等の除却の実施

●国の個別補助制度を活用した雨水整備を加速化

●(半田川田排水区・藤方排水区)

●津駅東口が国のバスタープロジェクトの調査箇所に選定

●エリアプラットフォーム

●「大門・丸之内 未来のまちづくり」の設立

●「津市大門・丸之内地区 未来ビジョン」の策定

●ParkPI制度を活用したHOWAパーク

●(中勢グリーンパーク)に新エリアオープン

●中勢バイパスが全線開通

●下部田垂水線(上浜工区)の事業主体が県に決定

●津松阪海岸堤防の整備が完了(約11km)

●津北部地域海岸堤防整備のうち

●白塚漁港海岸堤防が完成(県事業)

●津興橋の下部工が完成

●(令和8年3月開通予定)

2008



新長野トンネル開通



安濃中央総合公園



2010



県道一志美杉線矢頭トンネル



雨水幹線(左:半田川田排水区、右:藤方排水区)



香良洲橋 渡り初め式